森林と人をつなぐかながわ森林インストラクターの会　平成２９年１２月１日発行　通巻第２６１号

森のなかま

２０１７年１２月号
ＮＯ．１１６号（継続２６１号）

ＮＰＯ法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　発行人　久保　重明
〒243－0018　厚木市中町２丁目１３番１４号・サンシャインビル６階６０４号　TEL046－297－0301・Fax046－297－0302

市民祭りパンフレットトップ

“第40回かわさき市民祭り　街頭キャンペーン”

日：１１月３日（金）晴れ、１１月４日（土）晴れ、１１月５日（日）晴れ
場所：川崎市川崎区富士見公園 おまつり広場西ゾーン西スタンド２ＦＬ

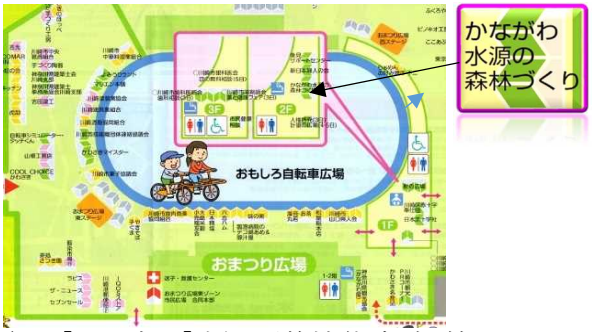
＜ 普及啓発部会長　足立　功　4期 ＞

出店場所と入場者数　今年は3連休の3日間だったのに、工事で会場が 2 つに分断されたことの影響もあり、来客数は例年並み程度でやや期待外れでした。
それでもリピーターが多く、手ごたえは十分でした。

参加者
11月3日(祝)　294人(大人163人、子供131人)
11月4日(土)　229人(大人107人、子供122人)
11月5日(日)　242人(大人122人　子供120人)
合　計　　765人

駅から会場への案内地図

私達の会場のあるおまつり広場



私達の会場の Layout

キャンペーン実施内容

(1)「紙芝居(水は森林からやってくる)」、「クイズ」、「水源涵養機能実験」等より、「森林の働き」を通じて、「水源の森林づくり」事業の理解を図る。
(2)木工教室(ドングリ工作等)　　(3)間伐材丸太切り体験
(4)リーフレット配布等による「水源の森林づくり」の広報
(5)トラスト会員勧誘および普及啓発活動

会場の準備

私達の会場の全景

受付開始

ガラガラポン(空くじ無し)

水源涵養機能実験

大盛況になってきました

ドングリ工作にはボーイスカウトの子らも、上手にできました

小さな子も丸太切り　⇒　バリ取り　⇒　コースター完成

今年も無事終了、後片づけ　、　✍　&　反省会

自然観察部会　第88回森林探訪　～表丹沢の山懐を歩こう～

丹沢大山自然再生委員会と共催　　11月5日　8:40 ～ 15:30　　参加者:42名

コース:　新松田駅　→(バス)→　寄 ⇒　三廻部林道 ⇒　県民の森 ⇒　西山林道 ⇒　大倉

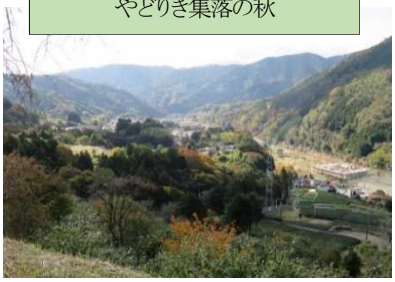
＜ 記　松石　藤夫　13期 ＞　　(写真撮影:内野⑨、松石⑬)

当初予定していた10月22日が台風による悪天候が予想されたため、前日に中止を決定し、改めて日程を変更して実施することにしました。その間、申し込み者への中止の連絡、再度、変更日程のお知らせなど慌しい対応になりましたが、無事に11月5日の実施日を迎えることが出来ました。当初は、72名の参加申し込みを頂き、急な日程変更にも拘らず、当日は、42名の方に参加して頂きました。今回は、昨年に続き2回目の丹沢大山再生委員会との共催で実施となります。多くの方の尽力で丹沢の自然が崩壊時期を経て再生されつつあり、水源林としての役割を果たしている現状を参加者の方に観ていただくことも重要なテーマとして挙げていました。

当日は、秋晴れの快晴に恵まれて森林探訪に絶好の朝を迎えることが出来ました。新松田駅前で受付を済ませた参加者は、バスで寄自然休暇村管理センター前に集合し、オリエンテーション、準備体操を済ませて班ごとに出発しました。まずは、中津川の寄大寺橋で表丹沢の水源の山を遠くから眺めてからスタートです。寄からろうばい園、茶畑を経る登りは、体調を整えながらゆっくりと植物観察を楽しみました

寄大寺橋から表丹沢の山々を

やどりき集落の秋



茶畑の隣でヤマトリカブトの話？

三廻部林道に出たところからは、林道を表丹沢県民の森まで緩い下りが続きます。秋が深くなり、野草の花は少なくなっていましたが、ノギク類、アザミ類、タデ類などの他、ヤマトリカブトも残っていてくれました。また、アオツヅラフジ、シオデ、アケビ、サルナシなどのツル性植物の実も多く楽しめました。三廻部林道から見た周りの山々の色とりどりの紅葉も参加者の方に楽しんで頂けたと思います。　予定の時間に県民の森に到着して昼食タイム。

アオツヅラフジの実

落ち葉の間に咲くヤクシソウ

県民の森のリンドウ

午後は、四十八瀬川の源流を渡り、黒龍の滝を経て西山林道に出て、林道に沿った植物を観察しながら大倉のバス停まで約一時間半の下りでした。

四十八瀬川の源流近くの丸木橋を渡ります

西山林道でも植物の観察です

全員無事に、予定より少し早めに大倉のバス停に着くことが出来ました。天候に恵まれ、参加者の方には表丹沢の山懐の秋を十分満喫して頂けたと思います。

森のめぐみ　シリーズ

枠組は桜の小枝です

第２１回
種類の多いタンニン

香りの図書館　館長　谷田貝　光克　氏

甘いと思って渋柿をかじった時の舌が麻痺するような渋さ、栗の渋皮の苦(にが)さ、経験したことのある方もいるのではないでしょうか。あの渋さ、それがポリフェノールの一種、タンニンです。

思ったよりも身近に、そして暮らしの中でお世話になっているタンニンですが、意外にその真相については知られていません。そこでここでは、タンニンについて少し詳しく眺めてみることにしましょう。

タンニンは加水分解型タンニンと縮合型タンニンに分けることができます。加水分解型タンニンは植物界に広く分布し双子葉植物に含まれています。分子量が500から3000ほどで比較的低分子です。そのほとんどが水に溶け、酸、酵素でも分解します。生薬に多く含まれていますので、民間薬として使用されてきたものが多いのも加水分解型タンニンの特長です。

加水分解型タンニンにはさらにガロタンニンとエラグタンニンの２種類があります。ガロタンニンは、ウルシ科ヌルデの五倍子、コナラ属樹種にできる没食子のポリフェノール成分没食子酸で構成されています。五倍子はヌルデの若芽や葉にヌルデシロアブラムシが寄生したため植物が身を守るために虫の嫌がるタンニンを作りだしたために膨らんだ虫こぶです。

ヌルデの虫こぶ
H29年11月
やどりき秦野林道
にて

エラグタンニンは没食子酸とやはりポリフェノールであるエラグ酸で構成されています。エラグタンニンはクリ材エキスやゲンノショウコに含まれています。

縮合型タンニンはポリフェノールの一種のフラボン類が結合した高分子です。 酸やアルカリで分解されにくいもので、加水分解型タンニンよりもより強固な結合でできているタンニンです。針葉樹、広葉樹のどちらにも含まれています。加水分解型に比べて分子量の幅が広く、大きいものでは2万ほどにもなります。柿渋やタマリンドなどのマメ科植物、針葉樹樹皮、アカシア属ワットルの樹皮、マングローブ樹皮、ラジーアータパイン樹皮、南米に生育する樹木ケブラッチョの心材などに多く縮合タンニンは含まれています。ワットルタンニン、ケブラッチョタンニン、ラジアータパインタンニンはその構造を活かして木材の接着剤原料としても用いられています。

**ボトル詰めで
売っている柿渋**

柿渋タンニンが水に溶けにくい縮合型であるにも関わらず渋柿を食べると渋さを感じるのは柿渋タンニンの一部に加水分解しやすい没食子酸の結合を含んでいるからで、没食子酸の渋さが舌を刺激するからです。

この渋柿を甘くする方法はいくつかありますがよく行なわれているのがアルコールを使う方法です。日本酒や焼酎を渋柿のへたの部分に数滴つけて容器の中に密閉して１週間ほど置くと渋さが消えて甘くなります。アルコールが酸化されてアセトアルデヒドになり、そのアセトアルデヒドが舌の水分に溶けない不溶化タンニンに変えるからです。

（イラスト　広報部　大塚　⑪）

活　動　短　信

今回の掲載は平成 29 年 9/9～9/30 です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

フリーイラストより

草露白 9/7～9/11 頃
そうろしろし
草の露が白く光る
第四十三候 白露 初候

蟄虫坏戸 9/28～10/2 頃
ちっちゅうとをとざす
虫が隠れて土の穴をふさぐ
第四十七候 秋分 次候

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
写真もあれば1枚**添付**ください。
◆ 活動団体・活動名 等
日 日付(できれば時間と天気も)
場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター(○数字:期) 研:研修枠
以下の**本文を概ね400字前後を目安**として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく！！)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 座間市芹沢公園　下草刈り・枝打ち

日 9 月 9 日(土)9:30～12:00、晴れ
場 座間市芹沢公園
参 22 名(大人 21 名、子供 1 名)
スタッフ 座間市役所の方5名
イ 小野⑦、大塚⑪

秋晴れの中、座間市の森林下刈りを行いました。参加者は、一般の方と地元バードゴルフ団体がご参加頂きました。準備体操をして、勾配のある法面の下刈りに取りかかりました。林内は笹が生える中、熱さに耐えながら一時間の作業をしていると、地元の方からの声援も頂きました。作業後の鎌手入れでは真剣な顔つきで研ぎました。

11:40 から新しく建設した管理棟で、市役所の方より参加者に証明書と記念品の贈呈をしました。

その後、森林講話は大塚が、林業の歴史と国産材の活用について、小野さんが神奈川の鹿の頭数の増減や県の施策について話しました。いくつか質疑もあり、とても良い活動となりました。

(記 大塚 晴子 ⑪)

◆ UAゼンセン神奈川支部 植樹

日 9 月 10 日(日)12:30～17:00、 晴れ
場 箱根町 元箱根ホテル一の湯&仙石原の町有林
参 UAゼンセン神奈川県支部員 17名
スタッフ 箱根町役場観光課2名と同町林業専門員1名
イ 小野⑦

定刻に集合場所のホテルに着き関係者に挨拶、13 時過ぎよりホテル内にて森林に関する講話を一時間弱実施。森林の働き・森林を作り育てるサイクル・日本の林業の抱える諸問題などを一部紙芝居の絵も見せながら説明した。

その後車と徒歩にて植樹場所に移動、現場は箱根ゴルフクラブ隣接地で 40 年超の桧林を間伐した後に 5 年前に広葉樹を植樹した場所だが枯れたり鹿の食害に遭ったりした木も多く鹿除け材を取り除いての補植である。

町の担当者の説明後小野が(マニュアルに基づいて)補足説明をしたのち4班に分かれて作業開始。イロハモミジ・ヒメシャラ・ヤマザクラ・ヤマボウシの4種75本をなるべく同種が隣り合わないように植えた。参加者の大部分が未体験者であり作業に戸惑いも有ったが、各班を回りながら指導と点検を実施し17時前には終了。

インストラクターが小野のみで「現地集合・現地解散」であり休日の為箱根路の渋滞と小田急線の沿線火災によるダイヤの乱れ等で疲れた一日となった。

(記 小野 幸広 ⑦)

かながわ森林インストラクターの会は『 緑の募金 』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 横浜市立稲荷台小学校 間伐体験

日 9 月 13 日(日)10:00～14:00、 晴れ
場 相模原市緑区 長竹承継分収林
参 小学 5 年生 50 名 教師等 8 名
財 古館様
イ L 木村⑭、伊藤⑦、内野⑨、松本⑪、西出⑫、牧石⑭

前日の雨が嘘のような晴れでかなり気温も上がってい

る。愛川ふれあい村体育館前に集まった稲荷台小学校の生徒 48 名先生6名と現地の長竹承継分収林へ行く、先生からの要望で間伐体験を通じて森林の大切さと間伐の必要性などを伝えて欲しいとのことでした。5 班に分かれ 2 時間で①間伐 1 本②コースター作り③昼食④講話は、かなり時間の余裕があり、全班しっかり教えられていた。伐倒した時の生徒の歓声が各班から聞こえて、緊張感のなかにも楽しさが伝わってきた。

今回の指導は全員ベテランのインストラクターだったので時間も正確に進みスムーズに作業が進んでいった。山を下りて帰る途中で生徒たちが自分達の切ったコースターの匂いを嗅ぎながら嬉しそうに歩いてくるのがとても印象的でした。

（記　木村　勇　⑭）

◆ 県民参加　森林づくりササ刈り（緑の募金保全活動）

日　9 月 13 日 8:30～15:00、 晴れ

場　箱根町仙石原　小塚山トラスト緑地

参　43 名 （男性 37 名　女性 6 名）

財　鳥海様、内田様　看　小林様

イ　L上田⑩、高橋③、稲辺⑤、滝澤⑤、山崎⑦、小沢⑨、園田⑨、篠原⑨、杉崎⑩、武井⑬、羽鳥⑭、

安全パトロール　佐藤⑤、小野⑦

事故等で道路が混雑していたため 20 分遅れのスケジュールとなりました。

天気は晴れ、気温は 30 度近くとなりましたが林内は爽やかな風も通り、絶好の作業日よりとなりました。最初に昨年度施工したエリアの新芽の除去を剪定バサミで行い、その後箱根笹の刈り払いに入りました。足場も問題なく順調に作業は進みました。背丈 2m以上のササを刈り進んで行くと、突然目の前にヒメシャラ等の巨木が現れ、参加者の作業活力にもなったようです。ただ一部の班は沢筋に近く作業が錯綜したためリーダーが臨機応変に適正配置で対応しました。作業は順調に進み現場は見違えるほどになりました。怪我・ヒヤリハットもなく無事予定通り作業は終了。参加者も充実の表情でした。

ただ残念なことは、今回も道具の返納のトラブルがあったことです。参加者の一人が返納場所に返納せずバスに乗車したため調査に時間が掛かったことです。また、受付時に参加者の一人が作業に不適切な服装（サンダル風履物）であったため参加をお断り」しました。「事故等があってからでは遅い」当然な対応だったと思います。

（記　羽鳥　亨　⑭）

◆ 川崎市立藤崎小学校　環境・エネルギー学校派遣事業 ～かながわ環境教室～

『森が「緑のダム」になることがわかる実験』

日　9 月 4 日（月）、 曇り

場　川崎市川崎区藤崎 3-2-1

参　藤崎小学校 5 年 4 クラスと教師（121 名+1 名）

イ　L足立④、井出①、堀江④、加藤⑫、

2017 年度のかながわ環境教室として井出製実験装置による「緑のダム」（A＝樹木なし、B＝樹木あり）の実験を行いました。午前に 2 回（10:50～）、午後に 1 回（13:40～）の 3 回実施しました。

授業は、初めに実験前の予想を考えその後、実験は 8 リットルの水入れとし、水かけ、計量とも決められた生徒さんが担当しました。実験結果の発表、最後に正解の発表から発展へ進みました。実験結果（水の色、しみこんだ水の量）から『森が「緑のダム」になる』ことがいえることを知ってもらい森の大切を訴えました。データは一回目＝8.6 倍、二回目＝9 倍、三回目＝10 倍のしみこみ結果でした。持ち時間が一校時 45 分のため少し駆け足になりましたが、全生徒に本実験工程と結果を理解してもらいました。

（記　加藤　久雄　⑫）

人も自然もいきいき　丹沢

丹沢の自然再生に取り組む　丹沢大山自然再生委員会のホームページでご覧ください。http://www.tanzawasaisei.jp/

◆ 横浜市立綱島小学校　上郷宿泊体験　自然観察　①

日　9 月 19 日（火）10:30～14:30、 晴れ

場　鎌倉宮～横浜上郷自然観察の森

参　117名（小学4年生 3 クラス）、教師等 10 名

イ　L 薗田⑬、堀江④、齋藤⑥、伊藤⑦、渡部⑦、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、大原⑬、長尾⑬、松石⑬、真部⑬

２日間を通しての自然体験学習の一日目として、鎌倉宮から横浜自然観察の森までのハイキングと自然観察を行った。

台風一過の快晴に恵まれて気持ち良い朝となり、子供たちは、鶴岡八幡宮から元気に歩いて鎌倉宮の境内に集合した。“出陣式”でインストラクターとの顔合わせ、先生とインストラクターからの注意事項を聴いて、12班に分かれ、11時に出発した。気温が上がりそうで、子供たちの水分補給に十分注意した。10分ほど歩いて、永福寺跡(国指定史跡)公園の中を通る際、寺の復元や頼朝についても話を聞いて、まずは鎌倉の歴史に触れてもらった。

公園からは、大木の生い茂った森の中を登ります。インストラクター夫々から林床植物の説明、イチョウの大木の話などを聞きながら急坂を登ること約１時間、横浜市最高地点に到着した。子供たちは少し疲れたようだが満足の表情。約10分で太平山手前の広場に着き、班ごとに昼食をとった。お弁当を広げると表情は一気に明るくなり、子供たちとインストラクターの会話も進み、楽しい昼食タイムだった。約45分の休みの間に太平山の頂上に登り、横浜中心街などの遠景を楽しんだ。

後半は、下り坂が多く、足元を注意しながらの歩きだったが、比較的明るい林の中のコースで、午前中とは違う植物が観られたので、子供たちに飽きさせない観察が出来たと思われます。

14時15分頃に全部の班が、横浜自然観察の森のモンキチョウ広場に着いた。コース中は、スズメバチが多く見られたが、注意事項をよく守ったためハチの被害やケガもなく全員無事に今日の活動を終わることが出来た。

(記　松石　藤夫　⑬)

かながわしずくちゃんホームページは下記URLで見ることができます。

http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f530038/p780119.html

◆ 横浜市立綱島小学校
上郷宿泊体験学習（自然観察）　②

日　9月20日(水) 9:00～12:00、　曇り/晴れ

場　横浜上郷自然観察の森

参　113名(小学4年生3クラス)、教師等10名

イ　L大原⑬、薗田⑬、堀江④、斎藤⑥、伊藤⑦、渡部⑦、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、松石⑬、真部⑬、長尾⑬、

昨日の鎌倉ハイキングに引き続いて、「横浜自然観察の森」内で自然観察を行なった。
薄曇りの天気で気温も安定していて自然散策にはちょうど良いコンディションで進められた。

今回は班ごとに1名インストラクターが付いて園内を説明して歩くという従来のやり方ではなく、5人1グループの生徒たちが自主的に園内を周り、要所でインストラクターが待ち受け、説明を行なうという方法で進められた。
インストラクターは4人ずつのグループで3つのエリアに分散し、回ってくる生徒たちに対して、そのエリアで特徴的な自然環境や動植物の説明・解説を行なった。生徒たちにとっては自主的に行動することで計画性と責任感を学びつつ、チェックポストで待つインストラクターからは植物や生きもの、自然の話しを聴くことが出来、メリハリの効いた活動内容になったのではないかと感じている。
いつもの観察会とは進め方が違っていたので、少し心配もしていたのだが、多少グループが団子状態になってしまったことはあったにせよ、ほぼ計画された時間通りに怪我もなく進行することが出来た。

(記　長尾　聖司　⑬)

◆ （公財）鎌倉市公園協会
平成29年度緑のレンジャー、シニア第７回

日　9月23日(土)10:00～～13:30、　曇り

場　鎌倉市散在ガ池森林公園

参　9名(男８名　女１名)

スタッフ　鎌倉市公園協会　　千田様、後藤様

イ　L安部⑤、小沢⑨

朝方までの雨も参加者全員のパワーで雨を遠のけ、曇り空の下担当の後藤様の進行によりオリエンテーション開始。緑のレンジャー、シニア第6回で散在ガ池森林公園としての環境を整える為に間伐、枝打ち等の処理を必要とする樹木を選定し、本日はその活動実施となる。

参加者を2班に分け、それぞれがヘルメット、鋸等必要な用具をそろえ管理事務所わきから約20分位歩き作業現場に到着。

まずは選木された木の場所を確認しながら、どの作業から優先して行うかを決める緑のレンジャーとしては、間伐体験が必修科目です。

間伐の目的及び方法、安全を第一として作業を説明、

皆さんが体験して頂く為に交代で間伐体験を実施、足場の確保、鋸の使い方、安全の為のロープ活用等、水分補給を入れながら 枝打ち、丸太切り、片付けを終了。次に公園散策道路脇にある枯木が倒木の危険がある為散策路に人がいない事を確認しながら伐倒処理を行う。

公園内の作業終了後昼食を取りながら今回の7回目も含め疑問点等をお聞きし、活動作業の補修としてロープワークの実習を行い皆さん満足された笑顔で散会した。

（記　小沢　章男　⑨）

◆ 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 9 月27 日(水)8:30～13:30、 曇り

場 鎌倉市梶原(市有林)

参 一般 59名(男45名、女14名)

財 豊丸課長、籾山様、鳥海様　看 小林様

スタッフ 梶原山町内会4名、鎌倉常盤山の会3名

イ L中村⑪、安部⑤、杉戸⑥、渡部⑦、草野⑧、酒井⑩
中元⑩、真貝⑪、福島⑪、東(昭)⑫、渡辺⑫、薗田⑬、
武井⑬、星野⑬、黒川⑭、小松⑭

8時30分、藤沢駅南口にて受付後徒歩でバス乗り場(県合同庁舎駐車場)まで 10 分ほど移動。バス5台で出発し、野村総研跡地に到着。再び徒歩で移動し、9時30分から、オリエンテーションを行った後、道具を配布、班毎に現場に移動して作業を開始しました。

時より雨がぱらつきましたが、特に問題なく作業が出来ました。うっそうと生える真竹、孟宗竹の林の中通路周りの竹の伐り払い、また細い竹、曲がった竹、古い竹などを伐採しました。密集した竹林に伐採により光が入り明るくなる様子がわかり、参加者の皆様にも満足していただけました。ただ、作業エリアが広く、半日ではすべてを整備できなかったので、引き続き次年度の整備を希望する声も聞かれました。

11 時 50 分に作業場所を離れ、班ごとに道具の手入れ回収を行い、無事に作業を終える事が出来ました。

作業後は、班ごとに昼食、感想・反省また竹林に関するインストラクターからの説明や質疑を行い、バスで藤沢駅まで帰り、解散となりました。

秋の気持ちの良い気候の中、作業により竹林の環境が良くなったことを実感できた一日でした。

（記 黒川　敏史　⑭）

◆ 横浜市立南本宿小学校 間伐体験

日 9 月 28 日(土)10:00～11:15、 雨

場 愛甲郡愛川町　愛川ふれあいの村

参 小学4年生 65 名　教師等 6 名

財 内田様

イ L牧石⑭、佐藤(武)⑤、伊藤⑦、小野⑦、
齋藤⑧、木村⑭、小松⑭

当初予定の長竹分収林での間伐活動は、前日の大雨と当日早朝の雨の為、中止とし愛川ふれあいの村で森林講話に予定を変更し実施。森林講話は、愛川ふれあいの村の広い集会室で6グループに分かれ実施。

はじめに、インストラクターより子供達になぜ中止にしたかを説明後、森林講話を開始。

森林講話の内容は、大きく9項目(①横浜市の水源地 ②森林のはたらきとサイクル ③神奈川の森林と野生動物 ④横浜市の水道料金 ⑤下草刈り・枝打ち・間伐の目的 ⑥地球温暖化 ⑦日本の木材自給率 ⑧木の年輪 ⑨里山)の内容で実施。実施方法は様々で、「質問形式」「対話形式」「絵や図を示した紙芝居形式」「実木で作成された間伐模型を使用しての説明」等で行われました。

森林講話終了後、多くの子供達より感想を聞かせていただき、森林講話の成果を感じる事が出来ました。森林講話を聴いて、水源林に興味を持ったとの意見をいただき、やどりき水源林「森の案内人」について紹介しました。最後に先生、生徒よりお礼の言葉をいただき終了しました。

（記 牧石　稔　⑭）

◆ 日揮株式会社　やどりき大会

日 9 月 30 日(土)10:00～13:30、 晴れ

場 松田町寄　やどりき水源林

参 日揮(株)社員 83 名

県 増子様、他 1 名

イ L 西出⑫、小野⑦、若林⑦、草野⑧、有坂⑧、
小沢⑨、村井⑨、宮下⑩、湯浅⑪、真貝⑪、
吉田⑪、宇田川⑬、立花⑭、牧石⑭、山口⑭

今年は、間伐体験、自然観察、森林癒し体験、水棲生

物観察の4つの活動が行われました。半数近くが外国の方でしたが、初秋の青空が広がる中、日本の豊かな自然を満喫して頂いたと思います。
間伐体験では、時間の制約や伐倒木が直径20cmを超える大木であったため、4班の内、倒す事ができたのは2本で、残り2本は作業が残りましたが、力仕事の疲れもヒノキの良い香りに癒された様でした。自然観察では、3班に分かれて、秦野峠林道を歩きながら、植物や昆虫を見付けて、皆さん、盛んに写真に収めていました。今回一番人気のあった森林癒し体験は、5班に分かれて、森林浴、ハンモック、水音、マイナスイオンなどの癒し体験をして頂き、皆さんに好評を頂きました。水棲生物観察では、用具の使い方などを説明した後、水棲生物を採取して広場に持ち帰り、全員で観察をしましたが、思いの外、いろんな生物がいて、楽しい時間を過ごしました。
皆さん、楽しい思い出を胸に、やどりき水源林を後にされました。

（記　西出　健一　⑫）

◆ 自然観察会「21 世紀の森　きのこ観察」

日　9 月 30 日(土)10:00～14:00、　晴れ
場　南足柄市内山　県立 21 世紀の森
　金太郎コース、どんぐりコース
参　参加者 27 名
スタッフ　21 世紀の森　平井様
イ　L 千葉⑦、友谷①

最大 20 人限定の観察会の予定が、参加希望者が多く、インストラクターを1人増員することで27人での観察会となった。27人の参加者には、野外での観察会前に、同じきのこ図鑑を1グループ（4人）に1冊ずつ渡し、図鑑の使い方を説明し、調べる時間を考慮し、きのこの採取も1人5つまでと決めた。観察コースは、木工館裏の斜面から金太郎コース、どんぐりコース、ふれあいセンター（昼食）まで。約1時間半かけて歩き、きのこを観察した。

昼食後、グループごとに採取したきのこを図鑑で同定し発表してもらった。きのこの同定の難しさは、図鑑自体に網羅されているきのこの種類が圧倒的に少ないこと、幼菌、成菌、老菌で外観が変化すること、さらに、森の中の湿気や乾燥、雨の影響により、外観が一定ではないことがある。図鑑との一致だけで野生のきのこを同定するには限界があり、樹木や昆虫、動物の糞など幅広い知識が必要になる。マツタケがマツ科の菌根と共生していることはよく知られているが、その他のきのこも、腐朽、菌根共生、寄生することで生きている。

以下、参加者が関心を持ったきのこをまとめた。

・ベニチャワンタケモドキ、ベニチャワンタケ…図鑑の同じページに掲載されていて、現物と図鑑の写真が一致。腐朽性きのこ。

・アラゲキクラゲ、マメザヤタケ(写真)…同じ枯れ木の幹にアラゲキクラゲ、根元にマメザヤタケが見られた。キクラゲ類は枯れ木や倒木に発生する腐朽性きのこ。

・カメムシタケ(写真)…冬虫夏草の仲間。昆虫に寄生する。カメムシと赤みのかかった子実体（きのこ）を一緒に、採取できた。地表で見られるのはごく一部。大人では到底見つけられないサイズで、小学校低学年の男の子が見つけた。寄生性きのこ。

・クロノボリリュウタケ…これもきのこらしくないきのこで、なんと小学生が採取し、図鑑を見て同定、発表してくれた。

・ タマゴタケ…今回は諦めていたところ、観察会の最後尾にいた家族連れが、傘と、柄がバラバラになったタマゴタケを採取していた。食用きのことしても知られ、外観も鮮やかなことから、参加者全員が注目。改めてタマゴタケの人気を再確認。菌根性きのこ。

・ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ…ともに毒きのこで、上記のタマゴタケと同じテングタケ科の仲間。こちらも例年よりも発生が少なかった。

（記　千葉　慶一　⑦）

日　　時：12 月 16 日(土)　13：00～14：30　(開場 12：00)
場　　所：ユニコムプラザさがみはら　相模原市南区相模大野 3 丁目 3 番地 2 号
参　加　費：無料　　定　　員：160 名(当日受付)
内　　容：【ミニ講演会】13 時 05 分から 14 時 15 分まで
水源環境を保全・再生する取り組みを知り、神奈川の森と水について考えよう。
・講師　渡辺　豊博 氏
(グラウンドワーク三島専務理事、都留文科大学特任教授（農学博士）)
テーマ「市民力を結集した「水の都・三島」の水辺再生活動」
ドブ川だった源兵衛川をホタルが乱舞する清流に再生したノウハウを伝授。
・講師　川島　範子 氏
(特定非営利活動法人小田原山盛の会副理事長、小田原環境志民ネットワーク理事)
テーマ「シカ問題～生物多様な森を守りたい！～」
美しく健全なふるさとの森を、市民調査、対策で次世代に残そう。
【水源環境保全・再生施策の紹介】14 時 15 分から 14 時 30 分まで
主　　催：　水源環境保全・再生かながわ県民会議
問　合　せ：　(事務局)神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課
Tel　045-210-4352　Fax　045-210-8855
詳　　細：　詳しくは**チラシ**または**ホームページ**をご覧ください。
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/evt/e0769547.html

名　　称　エコプロ2017~環境とエネルギーの未来展[第19回]
会　　期　2017 年 12 月 7 日(木)~9 日(土)10:00~18:00(最終日は 17:00 まで)
会　　場　東京ビッグサイト 東ホール
主　　催　(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
入 場 料　無料(登録制)
出展規模　700 社･団体／1,500 小間(見込み)
来場者数　170,000 人(見込み)
後　　援　内閣府、経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、厚生労働省、消費者庁、
(一社)日本経済団体連合会、(公社)経済同友会、日本商工会議所、東京商工会議所、
(国研)新エネルギー･産業技術総合開発機構、
日本貿易振興機構(ジェ トロ)、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、埼玉県教育委員会、
神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会(順不同)[申請予定]
http://eco-pro.com/2017/outline/000534.html

やどりき水源林ミニガイド

11月のトピックス

『黄金色の秋』です。

ツルウメモドキ

（秦野林道にて　撮影）

12月の水源林

やどりきは秋の終わりと冬の始まりが見られます。動物も麓に降りてきます。うまくするとカモシカも！！

「森の案内人」情報

（12月、1月、2月はお休みとなります）

「森の案内人」情報

案内人がご案内します。案内と事故保険は無料です。

●実施時間：毎週土曜・日曜・AM10 時・PM1 時，1～2 時間程度

●集　合：水源林入口ゲート前

●内　容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

＊10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：（公財）かながわトラスト みどり財団　TEL：045－412-2255　FAX：045－412-2300

● ホームページ：http://www.ktm.or.jp http://ktm.or.jp/contents/event/h27/yadorikih27.html　E-mail：midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約 25 分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩 35～40 分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報　＆　ご案内

神奈川県立生命の星-地球博物館

2017 年度企画展「レッドデータの生物－知って守ろう　神奈川の生き物たち

H29.12/16（土）～H30.2/25（日）

この企画展では、レッドデータの調査をどのように行い、生き物を守っていくのか、写真や生物標本で紹介します。

また、レッドデータの生き物たちの生息環境を巨大マップで解説します。

神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031　神奈川県小田原市入生田 499
TEL：0465-21-115　FAX：0460-23-8846

◇　森のなかま原稿募集　◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

＜広報全般についてのお問い合わせ＞
松本　保

Mail：matsutamori@jcom.zaq.ne.jp
Tel　：090－7962－3168

＜電子配信担当＞　赤崎 さほり

Mail：s_akasaki-k_instructor@live.jp
Tel　：090－6150－6173

＜メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】松本　保
〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17
Fax：045-301-9401
電話連絡先：090－7962－3168
Mail：matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】黒川　敏史
〒247-0066　鎌倉市山崎 2273-1-515
Tel：080-5477-2206
Mail：kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊はCC を】福島　正治（事務局長）
〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204
Tel/Fax：044-944-9423
Mail：fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。
（ホームページ）　http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01
（HP 担当：井出恒夫）

記載洩れ：

先月号(11月号)2,3ページで一部イラスト等の参考文献元の記載洩れがありました。この様な事が無いように注意いたします。
編集人：松本

編集後記

★冬になり、ウォーキングもためらう寒さです。毎日、新宿の桂とポプラ並木の落葉を見ながら、一万歩歩いています。冬は景色がちょっと寂しいですね。
（大塚）

★紅葉を見ながら山に登って温泉に行きたいのですが、
時間が取れないまま、ただ葉っぱが散っていく…　（赤崎）

★冬の間は、ネットワーク活動も県民参加も少なくなり、別冊の出番表の欄も小さくなりました。今年の「森のなかま」も本号で最終です。来年もよろしくお願いします。　（黒川）

★もう「師走」。「月日は百代の過客にして・・・」と言うけど、人生の短さと長さ、歴史の流れの速さを感じつつ・・・。
（吉田）

★11/25（土）にやどりき動物班で夜間動物観察を行いました。その時初めてムササビの鳴き声を聞きました。（YouTube で確認）ちなみに気温は温かい日でしたが 18 時ごろやどりきは6℃でした。
（松本）

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで 2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。

編集人：　松本　保
事務局：　福島　正治
広報部：　大塚晴子　赤崎さほり
　　小川和恵　薗田栄哉
　　黒川敏史　　吉田郁夫
支援：伊藤恭造　大原正志　江頭淑子

宮ヶ瀬クリスマスみんなのつどい　～宮ケ瀬光のメルヘン

11 月 25 日～12 月 25 日　17:00～22:00（12 月 23 日～25 日は～23:00）

神奈川県県央地域にたたずむ宮ヶ瀬湖畔で行われる冬の一大イベント。

高さ 30m 超のジャンボクリスマスツリーと、水の郷大つり橋のイルミネーションが幻想的な世界を創り出す。水の郷の樹木にもイルミネーションが飾られ、色とりどりのオブジェが並ぶ。

期間中は、花火開催される日や、子どもサンタパレード、ステージイベント、大抽選会など様々なイベントも行われ、静寂な湖畔が一気に賑やかになる。

http://www.town.kiyokawa.kanagawa.jp/soshiki/sangyokanko/223.html
宮ヶ瀬水の郷イベント実行委員会事務局　清川村宮ヶ瀬 940-5
電話:046-288-1340